

オーストラリア出身で日本をこよなく愛するクリス・グレンさんが  
中部地域の産業の現場や遺産をめぐります!

# 産業 Impression!

クリス・グレンの

感謝の気持ちを  
込めてお送り  
させていただきます。  
ご挨拶  
部 エリアの  
会社です!  
来からもよろしくお祈り  
栗養社



Vol. 12

## 日本の“押す文化”を支える技術力

“シャチハタ”の名前で知られ、当たり前のように使われている「ネーム印」。朱肉がなくても何度も捺印ができる便利な印章（ハンコ）には、実はモノづくりのアイデアと技術がたくさん詰まっています。今回は、愛知県稲沢市にあるシャチハタ株式会社のメイン工場・稲沢工場で、スタンプ製造の現場を見学してきました!



取材協力

シャチハタ株式会社 稲沢工場

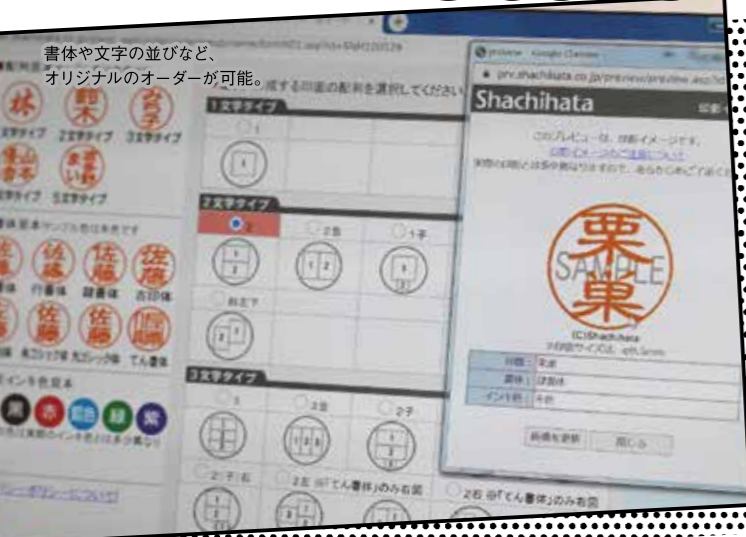
1925年(大正14年)に舟橋商会を創業。1941年(昭和16年)シャチハタ工業株式会社設立。「Xスタンパー」や「ネーム印」などのスタンプ製品や筆記具で世界にもシェアを広げている。本社は名古屋市。稲沢工場では研究から生産までを行う。  
<https://www.shachihata.co.jp/>



クリス・グレン

オーストラリア出身。名古屋市在住。ラジオDJとしてZIP-FM『RADIO ORBIT』(日曜10:00~13:00)を担当するほか、NHK『プラタモリ』、NHK WORLD『CASTLE QUEST』『NINJA TRUTH』などテレビ出演も多数。趣味は戦国史の研究、城めぐりなど。近年は、外国人目線での地域の魅力の掘り起こしや情報発信などを行うインバウンド観光アドバイザーとしても活躍中。  
<http://www.chris-glenn.com/>

# ~これから~ Future



## アナログもデジタルも シャチハタのフィールド

現在は、WEB上で手軽に「Xスタンプ」や「ネーム印」をオーダーでき、より身近になっているシャチハタの製品だが、モノとしての印章だけでなく、デジタルとのマッチングにも対応してきた。1995年(平成7年)に、すでにデータ化した印影をコンピュータ上で捺印できる電子決裁システム「パソコン決裁」を提供。2017年には、クラウド上で捺印・回覧ができる「パソコン決裁Cloud」をリリース。さらにセキュリティ強化や機能を拡充した「Shachihata Cloud」を20年にスタートさせた。



ネットワーク時代にいち早く対応すべく、25年以上前に発売した電子印鑑システム「パソコン決裁」。



印影を登録し、クラウド上で捺印を可能にする「Shachihata Cloud」。リモートワークが当たり前となった今、すでに多くの企業が導入している。  
<https://dstmp.shachihata.co.jp/>

クリスさんもネーム印をオーダー。ボディのカラーは新色の「灰白」をチョイス。



創業95周年記念の「ネーム9」の新色は、落ち着いた日本の伝統色を採用。

発想の転換と技術力で印章がこんなにも可能性の広がる楽しい製品になるなんて!

# Amazing!

# ~いま~ Now



ネーム印製造の様子。コンピュータで印影に不具合がないかチェック。

## インキとゴムの高い技術力が 可能性を広げてきた

捺印する際、求められるのは美しい印影だ。時代の変化とともに、印章の用途や使用する場面は多様化した。押す対象は紙だけでなく、金属やプラスチックにも及び、色のラインアップも豊富になった。それら数々の要望に応じてきたインキと、そのインキに合わせてつくられるゴムに関する開発力・技術力がシャチハタの大きな武器だ。あえて「消える」インキを使い、子どもの手洗いを促す「おててポン」など、印章の楽しさを体現するさまざまなアイデア商品も生まれている。



ネーム印の断面図。内蔵されたインキが印面のゴムに最適染み込み、美しい印影の捺印ができる。



印面のゴムは、材料に塩を練り込んで成形。塩を抜きスポンジ状にすることでインキを溜める。



手に押して、印影が消えるまで手を洗うことで、上手な手洗いの練習ができる「おててポン」。コロナ禍の中で話題に。



印面を加工するレーザー機器の前にて。

水以外、押せないモノはない! その技術力に驚きです!

# Cool!



創業当時の名古屋市中区岩井通り営業所。



# Past

~これまで~

## チャレンジ精神と技術力で こんなモノがあったら便利…を実現!

1925年(大正14年)、舟橋金造氏・高次氏兄弟が舟橋商会を創業。当時のスタンプ台は使うたびにインキを補充していたが、いつでも使える「万年スタンプ台」を開発し、販売をスタートする。1965年(昭和40年)、開発に10年余りを要した「Xスタンプ」を発売。ゴム製の印面からインキが染み出るスタンプ台いらずのスタンプという画期的な商品だった。そして1968年(昭和43年)には、「Xスタンプ」と並んでロングランヒット商品となる「ネーム印」が発売される。



昭和30年頃の「万年スタンプ台」の組み立ての様子。空気中の水分を吸収し、常にキレイに押せる仕組みだ。



1970年前後から販売されたスタンプ台。このデザインに見覚えのある方も多いのでは?

ビジネス用途を中心に現在も親しまれている「Xスタンプ」の初期モデル。「Xスタンプ」は、1970年(昭和45年)の大阪万博で、さまざまなバビリオンの記念スタンプに採用され、多くの来場者が捺印した。



「長く愛され使われる製品を」との想いで、モノづくりに向き合う伊藤工場長。

便利なモノを発想して、実現させるパワーがスゴイ!

# Wow!

## 「押す文化」の先頭を走る モノづくり企業

どーも、どーも、どーも! クリス・グレレンです。シャチハタといえば、朱肉いらずの印章(ハンコ)「Xスタンプ」や「ネーム印」が有名です。よね。実はボク、約25年前に「Xスタンプ」のプロモーションで声の出演をしていたんですよ! さらに、シャチハタさんの筆記具「アートライン」の大ファンで、もう30年以上も愛用しています! これは縁を感じずにはられません!

よく考えたら、捺印するたびに中のインキがゴムの印面にちょうど良く出て、キレイな印影ができるのは、スゴイ技術ですよな!? そんなインキとゴムに関する技術力を生かし、いろいろな用途に合わせた製品づくりにチャレンジしているシャチハタさん。まさに、日本の「押す文化」の牽引者! これからも、印章(ハンコ)を通じて世の中に便利さと楽しさを届けてくれるでしょう!



シャチハタの筆記具「アートライン」。



1930年(昭和5年)に誕生した日の丸に鯨を描いたマークが「シャチハタ」の由来。

ご案内いただいたのは…  
稲沢工場 工場長  
伊藤 和義さん

